

2 エキスパート A- ＜身体・運動機能の発達＞

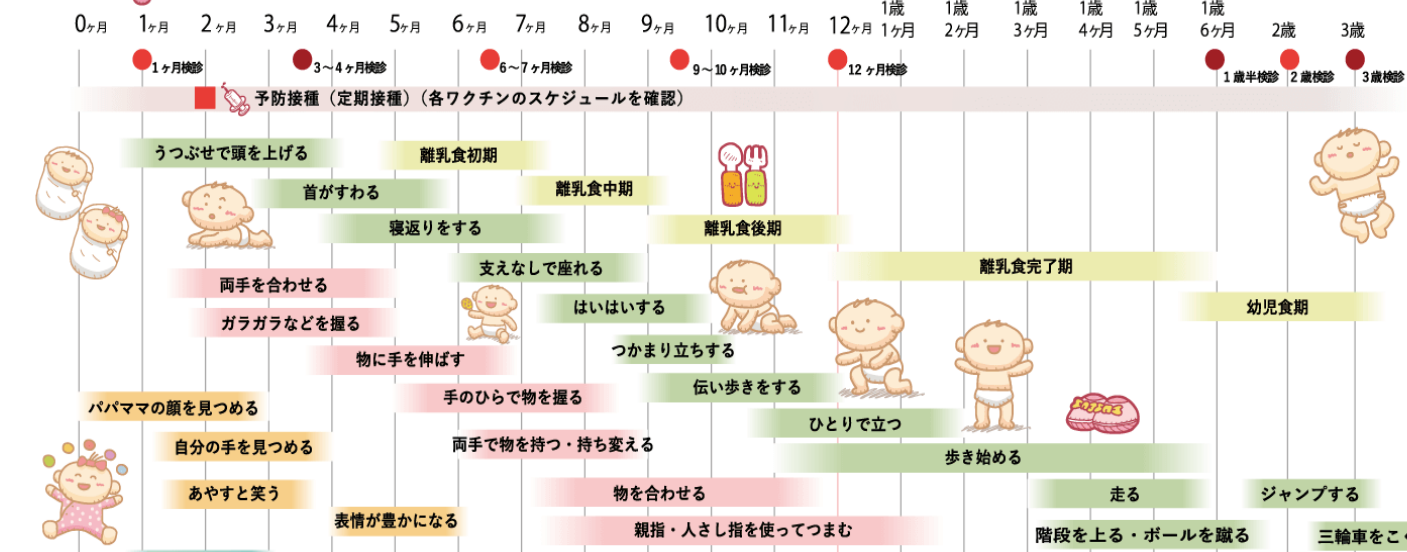
今日の課題：動画の子どもの月齢・年齢を推測し、場面①から場面④を発達の順に並べよう。

また、その理由を説明しよう。

を解決するポイントを資料から導きだそう

資料 1

赤ちゃん成長カレンダー 発育・発達目安



「妊婦/赤ちゃん準備」より

【1歳児】

手をつかなくても立っていられる状態から、さらに平衡感覚が発達すると、片足ずつ交互に体重移動して2～3歩歩けるようになります。最初は足を開き、両手でバランスをとりながらの不安定な歩行ですが、体のバランス能力が向上すると、しだいに手を使わなくてもまっすぐに歩けるようになります。歩き始める時期は乳児期の発達の経過によって、かなりの個人差があります。早い場合は11か月ごろに初期歩行が見られますが、ゆっくりの場合は1歳5か月ごろです。一人歩きが安定してくると、前進だけでなく、わずかですが後ずさりができるようになったり、玩具などを持ったまま立ち上がったできるようになります。

【2歳児】

歩行が完成してきて、かなり長い距離を一人で歩くことができるようになります。転ぶことも少なくなり、安定感のある足取りになります。この時期は走り回る姿がよく見られます。歩行に比べると、走る動作は未熟で、止まるように声をかけても急に止まることはできません。方向を変えることもスムーズにはいきませんが、歩いたり走ったりしてよく動きまわることで、基本的な運動機能が高まっていきます。階段の昇降は、1 段ごとに足をそろえながら、手すりにつかまらずに一人で上り下りができます。

【3歳児】

運動能力や平衡感覚が発達し、平均台を渡れるようになります。マット運動では前方回転（でんぐり返し）ができるようになりますが、まだ連続して行うことはできません。またがったまま地面をけて動かしていた三輪車は、ペダルを踏んでこげるようになります。「～しながら～する」という2つの異なる運動を同時に行うことも、3歳代前半では難しいが次第にできるようになります。

【4歳児】

4歳ごろになると、さらにしうかりとした足取りで歩行できるようになり、散歩も1時間以上できるようになります。走るスピードも増し、カーブで曲がるときの体の傾け方、足の力の入れ方などもうまく調節できるようになります。急に走り出したり、止まったりすることを楽しめるようになり、スキップもだいぶ上達します。また、重心の連続移動が可能になるので、前方回転やタイヤ跳びを連続しておこなえるようになります。左右どちらの足でもケンケンができ、階段を片足ずつ交互に下りることもできます。鉄棒の逆上がりやブランコの立ち乗りにも挑戦して、なかにはできるようになる子どももいます。また、粗大運動の発達とともに、微細運動も発達します。手先もさらにうまく使えるようになり、ひもを固結びにしたり、はさみをうまく使えるようになります。

【5歳児】

5歳児になると、運動機能がますます発達し、目標に向かって全速力で走れるようになります。平衡感覚の発達もかなり進み、竹馬や一輪車をうまく乗りこなせるようになります。縄跳び、跳び箱、鉄棒の逆上がりなどもできるようになります。目と手の協応がかなり発達してボールの扱いも上手になり、サッカーやドッジボールなどのチーム運動を楽しむことも可能になります。指を1本ずつ折り曲げられるようになり、手先がますますうまく使えるようになります。箸、鉛筆、クレヨンなどを上手に使いこなし、ピンセットなどで細かいものをつまんだり、金づちで釘をしっかりと打ったりすることもできます。

「子どもの発達がわかる本」より

資料2

月齢	全身運動	手指の動き
3歳		はさみを使って紙を切る
2歳6か月		まねて直線を引く
2歳		積み木を横に2つ以上ならべる
1歳6か月		スプーンを使う
1歳		
11か月		おもちゃの車を走らせる
10か月		
9か月		おもちゃのたいこをたたく
8か月		親指と人差し指でつかもうとする
7か月		
6か月		手を出して物をつかむ
5か月		ガラガラを振る
4か月		おもちゃをつかんでいる
3か月		
2か月		
1か月		
出生		手に触れたものをつかむ

「福井市結婚・子育て応援サイトはぐくむ.net」より

(1) 資料1・2を読んで、0歳児から5歳児までの身体・運動機能の発達の特徴に線を引きましょう。

(2) 動画の場面①～④の子どもの月齢や年齢を考える際に、身体・運動機能の面でどのような特徴が見られましたか。それぞれについて書きだしましょう。

場面①：

場面②：

場面③：

場面④：

資料から考えたこと

場面①の子どもは、()	だから()	か月・歳ではないか
場面②の子どもは、()	だから()	か月・歳ではないか
場面③の子どもは、()	だから()	か月・歳ではないか
場面④の子どもは、()	だから()	か月・歳ではないか

そこで、() $\rightarrow$ () $\rightarrow$ () $\rightarrow$ () の順だと考える

1年1組()番:氏名

2 エキスパートBー ＜ことば・コミュニケーションの発達＞

今日の課題：動画の子どもの月齢・年齢を推測し、場面①から場面④を発達の順に並べよう。
また、その理由を説明しよう。

【0歳】
まだことばの話せない赤ちゃんでも非言語的コミュニケーションは、盛んに行っています。その典型的な方法が「泣く」ことです。泣くことによって周囲の人の注意を自分に引きつけようとしているのです。また、表情や視線も赤ちゃんにとって重要なコミュニケーションです。機嫌のよいときに人からあやされたときに、赤ちゃんは「アー」「ウー」などの音声を発するようになります。これがやがて、ことばの前段階である喃語へとつながり、4か月を過ぎると盛んに出るようになります。意味のないことばであっても、赤ちゃんが話そうとしたら、その様子をしっかりと受け止め、うなずいたり赤ちゃんの発声をまねしたりする「応答的環境」をつくって声を出す楽しさを教えましょう。3か月を過ぎるころの赤ちゃんは、あやされると大きな声で笑うだけでなく、自分からあやされることを求めて、にこにこ笑いかけたりします。しかし、7～8カ月頃になるとこのような愛想のよさを見せるのは、自分の世話をしてくれる特定の大人に対してだけということが多くなります。これが「人見知り」です。赤ちゃんが知っている人と知らない人を見分ける能力が育っていることを意味します。9～10カ月ごろには、人見知りに加えて「後追い」も激しくなる時期です。また、10か月を過ぎると取ってほしいものや興味を引かれるものがあると「アー」と声を出しながら指さしをするようになります。1歳前後になると喃語の中に意味のあることばが交じるようにあり、これを「初語」といいます。一番多いのは「マンマ」、次に「ママ」「パパ」などです。「子どもの発達がわかる本」より

【1～3歳児】
1歳児では、一つのことばのなかに思いがいっぱい込められている「一語文」から「ブーブー いた」「これよんで」といった「二語文」へ、といった文法的な発達が見られます。それに対して3歳児の時期には、たくさんのことばをおぼえ、活発に話すようになるだけでなく、自分の思いを伝えたり、表現したりする手段としてことばを使うようになるという点が特徴です。それまでは、泣いたり、怒ったり、かみついたりという形で表現されてきた自己主張が、ことばによって行われるようになるのです。質問という点でも1歳児と3歳児は大きく違います。「第一質問期」と呼ばれるおおむね2歳前後の時期には、「これ なーに？」といった名前をたずねる質問が多く見られます。それに対して「第二質問期」になると「なぜ？」「どうして ～なの？」「いつ？」「どこで？」などといった理由、時間や場所をたずねる質問が増えます。だいたい2歳児を過ぎるころから始まり、3歳児代で非常に活発になります。これは、3歳児がもの・実物だけでなく、しくみや経過に関心を持ち始めたことを表しています。

【4歳児】
4歳児になると、自分にとってむずかしいことや「がんばらなければ」と思っていることに向けて、自分自身を励まして挑戦しようとする姿が見られます。自分を励まし、努力できるようになるのは、4歳児の時期にことばが著しく育つことと大きく関係しています。コミュニケーションの手段としての機能に加え、ことばが思考の手段として機能し始めるのです。ことばが思考の手段として機能し始めると、子どもは自分自身と「内的な対話」ができるようになります。この内的な対話が、自分を励ましたり、気持ちを立てなおしたり、がまんしたりすることを支えています。「はずかしいけど、みんなといっしょだからがんばってみよう」「早くしたいけれど、順番だから待とう」など、状況と自分の思いとの関係をことばで整理し、ふさわしい行動をとろうと努力することにつながっていくのです。また、4歳代になると助詞を使って「公園で大きい犬を見たよ」のような自然な表現ができるようになります。接続詞の使用も始まり、「今日ね、竹馬に乗ったよ。でもね、難しかった。」などと話せるようになります。言葉の数も急増する時期なので、覚えた言葉を使ったコミュニケーションを楽しみます。

【5歳児】
5歳児は、「みんなでめざす価値のある活動」に取り組むことで、集団的達成感を感じることができます。こうした活動の中で、子どもたちの認識は広がっていきます。いろいろな角度から対象をとらえることができるようになると、これまでよく知っていたことでも違う見え方をするし、新たな発見があります。自分が見つけたことを友だちと伝え合うことで、よく見る、探究することが一層楽しくなります。それまでなら、トラブルがあると「〇〇ちゃんとはもうあそばない！」「△△ちゃんはズルするからきらい！」など、友だちの一面を見て決めつけてしまうところがありましたが、少しずつ多面的に見ることができるようになるにつれて、「勝手なことをするときもあるけど、やさしいところもあるよ」「この前～してくれたよ」など、いろいろな面に目を向けて他者を理解することができるようになってきます。また、4歳前後までは考えるためのことばを口に出してしまうが、5～6歳頃になると頭の中で考えられるようになるので、考えるためのことばは見られなくなります。そして、先のことを予測して次の行動の理由付けができるようになります。「ドッジボールをしよう。」と言っていたのが、「園庭があいているからドッジボールをしよう。」のように、理由を添えて提案できるようになります。「幼児期の発達と生活・あそび」より

- (1) 資料を読んで、0歳児から5歳児までのことば・コミュニケーションの発達の特徴に線を引きましょう。
- (2) 動画の場面①～④の子どもの月齢や年齢を考える際に、ことば・コミュニケーションの面でどのような特徴が見られましたか。それぞれについて書きだしましょう。

場面①：

場面②：

場面③：

場面④：

- (3) 動画の場面①～④の子どもに対して、周りの大人がどのような関わりをしていましたか。

資料から考えたこと			
場面①の子どもは、（	）だから（	）か月・歳ではないか	
場面②の子どもは、（	）だから（	）か月・歳ではないか	
場面③の子どもは、（	）だから（	）か月・歳ではないか	
場面④の子どもは、（	）だから（	）か月・歳ではないか	
そこで、（			
→（			
→（			
→（			
の順だと考える			

1年1組（ ）番：氏名



今日の課題：動画の子どもの月齢・年齢を推測し、場面①から場面④を発達の順に並べよう。

また、その理由を説明しよう。

を解決するポイントを資料から導きだそう

【0～4 か月ころ】 ミルクや母乳がメインの時期です。最初はうまく飲めず、授乳回数も多いですが、しだいにじょうずに飲めるようになり、一度に飲む量も増えていきます。3 か月ころには、遊び飲みが始まります。

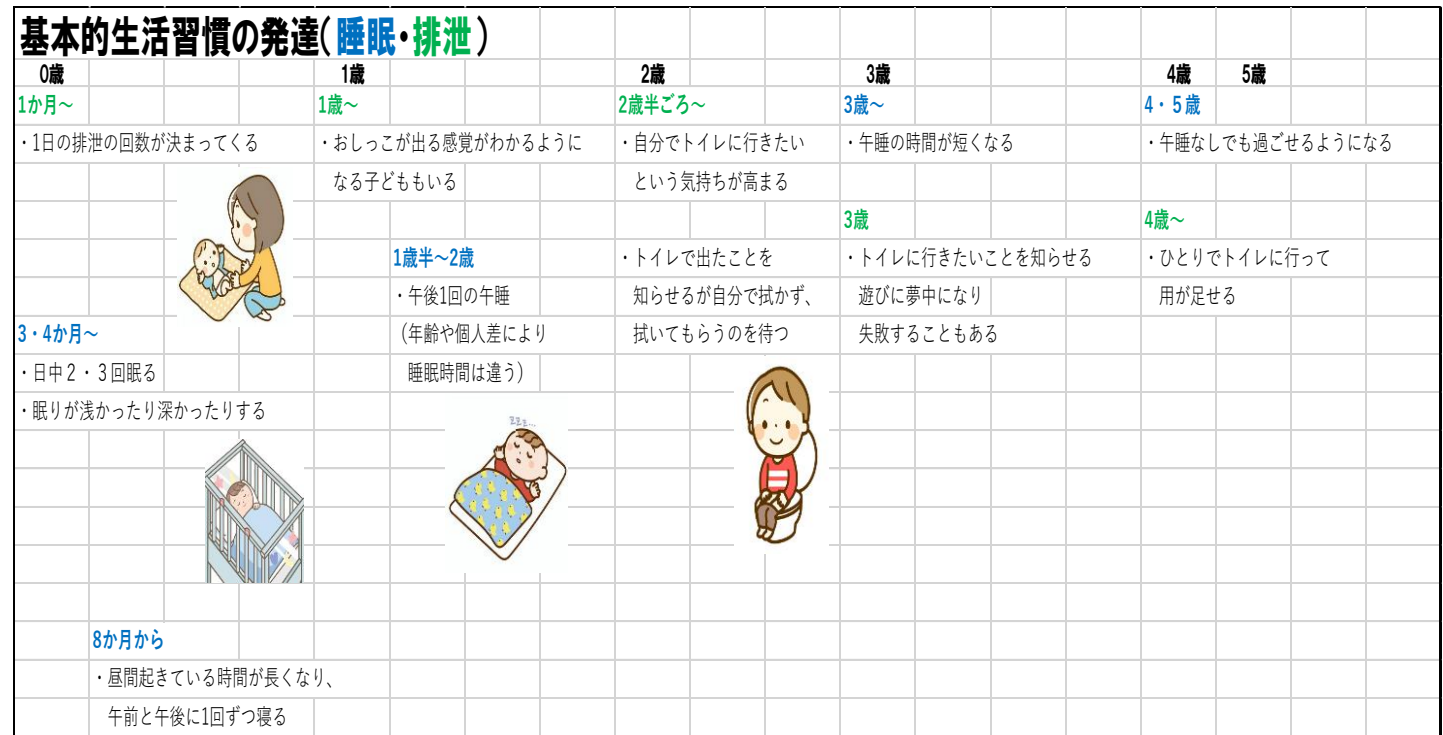
【5 か月～】 ミルクや母乳以外で初めて口にする食べ物、離乳食が始まります。このころは食べる基礎が培われる大切な時期です。1 回食、2 回食、3 回食と段階を追って進んでいきます。大人の持っているスプーンやフォークなどに興味を示し始め、自分で持ちたがります。

【1 歳 6 か月～】 離乳食も完了期を迎え、食事だけで栄養がとれるようになり、えん下（飲み込むこと）やそしゃく（噛むこと）もかなり発達します。自分でスプーンやフォークを持って食べようとしますが、まだうまく口に入れることが難しく、こぼす量も多いです。

【2 歳】 好みがはっきりしてきて、好き嫌いやこだわりが出てきます。食事時間は 30 分位を目安に設定しましょう。鉛筆握りができるようになるとはしをもたせてみてもよいでしょう。

【3 歳】 はしを持って食べるようになりますが、うまく使えずにこぼすことが多いです。毎回はしを使うことで、ひと口ずつじょうずに食べるようになっていきます。食事のマナーはなかなか身につくものですが、少しずつ覚えていくように、言葉をかけていきましょう。

【4 歳～】 偏食が強くなったり、食事の時間がかかりすぎたりと、ひとりひとりに差が出てきます。友だちといっしょに食べることが楽しくなり、はしをじょうずに持って食べることができ、マナーも身についていきます。自分たちで野菜を育てたり、収穫して食べたりして、食べるということを深く感じるようになります。



(1) 動画の場面①～④の子どもの月齢や年齢を考える際に、生活リズム・基本的生活習慣の面でどのような特徴が見られましたか。それぞれについて書きましょう。

場面①：

場面②：

場面③：

場面④：

(2) 資料の中で、(1)で書き出した特徴と関連のあるところに線を引きましょう。

1年1組 () 番：氏名